

# 抑えられない猛烈な執念が、高い境地へと昇華されることを切に願う

Greatchain

December 16, 2024

まず、我が家で現在起こっている、不可解な出来事からお話ししたい。私の家には門扉の郵便受けに呼び鈴があって、押せば映像ともに居間へ通じるようになっている。このピンポンが、誰も人がいないのに、最初にだれかが押すと、続いてしきりに鳴るようになって、これで3日になる。最初はこれが30回くらいで止まった。2日目は、たまたま別の用で電気屋さん来て、彼が押すと、続いてやはり30回ほど鳴って終わった。これが故障であればずっと鳴るはずである。彼は相当時間をかけて調べてくれたが、「わからない、不思議だ」と言った。3日目、私はほぼ同じ時間に自分で押してみた。するとやはり勝手になり出した。これもほぼ同じ回数で終わった（と思った）。しかしこのときは、また鳴り出し、しばらくしてまた鳴るということを繰り返した。私はとうとう、厚紙をボタンの上からテープで貼り付け、押せないようにした。が、この工作の間中、ピンポンは怒ったようになり続けた。

これをどう解釈するか？ 私はある仮説を立てているが、これがたとえ間違ったとしても、これは十分にあり得ることだと思っている。実はこの日遅く、電話が私の妻に掛かってきて、ある男性から「長いことお付き合いいただいた家内が亡くなった。実は1週間前に死んだのだが、ご通知が遅れてすまない」と言った。

この奥さんとは50年も前からの付き合いだから、私もよく知っている。亡くなったこの人は、良くも悪くも気性の激しい人だった。私から見ても、仏教でいう煩惱が際立って強烈な人物であり、それは妄執というべきで、悪人とは違う。自分で自分をどうすることもできず苦しむタイプの人だった。そのために、ほとんどの友人が、本人の努力にもかかわらず、次々と離れていった。そしておそらく私の妻だけが、きつい忠告をしながらも、最後まで誠実に付き合い、信頼されていた友人だったと思う。

そのような彼女にとって、私の家が最も引き寄せられる最後の場所であり、自分の死んだことをまだ知らないでいる私の妻に対し、例の自制できない妄執によって、何度もしつこピンポンを鳴らしたという仮説は、十分に成り立つのではなからうか？

ところで話は変わるが、私は、プレアデス高等評議会と呼ばれるような人々からの情報に、驚き、かつ貴重な教育を受けている。これは自分だけで読むのは惜しいと思い、友人にこれを勧めたりもした。昭和世代というように年代を限って、古い道徳的な教育体制と、その後の唯物論体制を経験した者たちに呼びかけるのもわかる。我々古い世代は、たとえば「艱難汝を玉にす」とか「念力岩をも通す」とか「貧者の一灯」とか言って、これはすばらしいが精神主義だと考えていた。しかし、プレアデス等の人々によって、エネルギー場、共鳴、集合意識、波動といった概念を駆使した、地球も宇宙は不可分の一体であるという真理を教えられれば、我々は誰しも、にわかに勇気が湧いてくるに違いない。

よく使われる、静かな湖面に投じた石の波紋の広がる比喻は有効である。「私一人が頑張ってもどうにもならない」という言い方は、完全に否定されている。私はプレアデスの人々から、道徳教育と高度な科学教育を、同時に受けようとは思わなかった。そしてこの宇宙の根源に我々を愛する創造主が存在する。そして現在、存在するもののすべて（人間も動物も虫も無生物もすべて）が、より高い次元へと進化しつつあると言われる。そう言われて動物の行動を観察してみると、確かに前より人間化していることがわかる。我々は自分の言葉や行動を通じて、高次元へと進化しなければならないことがわかる。

私自身は、自分の使命が言葉であることがわかっているので、言葉の価値を意識し、常にこれを洗練しようとしている。かつて、俳句というものを馬鹿にして、「第二芸術」などと言った教授がいた。今はそれを言う者はいなくなった。しかし、それは通過しなければならない過程だった。

以下、私の試みた俳句をいくつか披露するが、これらはプレアデス人の愛の共鳴論からきていると言ってよい：——

○ 韃陀多（かんだた）の蜘蛛 何ゆえぞ人を慕う

（芥川龍之介の「蜘蛛の糸」参照、秋ごろに現れるクモの習性で、逃げようとせず指先に寄ってくることもある）

○ 五月雨やああ、天、人を抱き流れゆく

○ 首洗う水は汚（よご）すな おおみずち

（これは Deep State——漫画では泥沼の爬虫類として描かれる——の運命であり、この者たちは這い上がれないまま、我々とは2つに分れ、別の道を行かねばならないと言われている）

○ 瘴気去り瑞気は天を轟かす

（これはだいぶ前の作品だが、2025年の正月から、この通りのこと——想像を絶する宇宙の大転換——が起こると言われている）

